

# ポラリスを仰ぐ北の大地から

## 安心してください 5,000万円あげますよ

宗谷医師会 会長 櫻井 晴邦

稚内市人口3万6千人、宗谷圏人口7万6千人。

医療機関は市立稚内病院が中核としてありますが耳鼻科、循環器科、麻酔科は出張医体制で常勤医は不在。また今春より泌尿器科常勤1名も移動予定であります。

ほか市内には、市立稚内病院の分院こまどり病院医師1名、稚内禎心会病院脳外2名、道北勤医協宗谷医院2名。個人開業医は内科2名、小児科2名、整形外科2名。

稚内市内の診療中の施設はすべて合わせて10施設。その他の郡部も含めて宗谷の医療圏を支えています。

稚内市には開業医誘致の制度があり、3施設が利用し現在の個人開業医のなんと半分です。

この制度についておおまかに説明すると、

- ① 土地、建物等取得費助成金 3,000万円
- ② 設置費助成金、固定資産税の税額 500万円/年
- ③ 貸付金 2,000万円

(詳細は稚内市のホームページ参照) 等であり、新規開業の先生方には魅力的だと思われそうですが、いかがでしょうか？

空路では稚内市内から稚内空港までは約10km、駐車場無料。新千歳2便(年間)、羽田1便(冬季)・2便(夏季)。東京まで2時間で行けますので下手な関東の田舎よりも交通の便は良いと思います。

また地震もほとんどなく、夏は涼しく地球温暖化の波に乗って、将来は住み易さ日本一も夢ではありません。

道内の先生方はもとより、一般のお知り合いや日本全国の先生方にこの稚内市開業医誘致制度が耳に届くよう、北海道医報の場を借りまして皆様よろしくお願ひ申しあげます。

いつまでこの制度があるかわかりません。また診療科の重複多数により制限がかかることも考えられます。

希望の先生は、お早めに！

## 紋別地域の医療報告

紋別医師会 会長 小林 正司

紋別で育ち、昭和41年に高校卒業し、北大で学び整形外科を研修し故郷に戻り、道立紋別病院で7年間勤務の後、昭和60年に開業し30年が経過。紋別医師会会長に就任してから10年目になります。

北海道の多くの自治体と同様に、紋別も人口減少と高齢化が進んでいます。昭和60年には人口32,000人で、65歳以上が9.8%でしたが、平成27年は24,000人で、65歳以上が32%となっております。

医療機関は、広域紋別病院を含めて病院が5カ所、有床診療所が2カ所、無床診療所が3カ所となっております。昭和60年には有床診療所が9カ所あったのですが激減しております。休日夜間の診療を道立紋別病院も含めて、輪番制で長い間やっておりました。民間医療機関も年に50回くらい、休日夜間当番をこなしておりました。しかしながら開業医の高齢化と道立紋別病院の医師不足もあり輪番制続行が困難となり、紋別市当局の努力により、平成21年8月から紋別市休日夜間急病センターが開業。医師も外部より招いたので、地元医師会員の精神的、身体的負担の減少は想像以上のものがありました。

平成23年4月に、道立紋別病院が紋別市へ移管ということで、広域紋別病院として開院。平成27年4月には新築移転し、ヘリポートもあり設備、環境もすばらしく、職員の皆さんも張り切って頑張っております。しかし、宮川市長、千賀企業長、及川院長の努力にもかかわらず、医師増員は思う様に進んでおりません。

紋別は食物も旨いし、東京直行便もあります。2～3年でも働いてみようかと思う方がおられましたら是非ご連絡ください。

本稿の最初の方で人口減の事を書きましたが、平成27年秋から遠軽厚生病院も産婦人科医が一人体制と広域紋別病院と同じ条件になり、初産は扱えずとなりました。これにより初産の方は約100km離れた北見市か名寄市もしくは150kmの旭川市迄行くという大変な状況になっており、出産意欲に影響が出るのではないかと心配しております。

最後に、これからもいろいろと困難もありますが、紋別市を含めて西紋地域として、興部町、雄武町、滝上町、西興部村と連携しつつ、多様化する医療、介護、保健ニーズに応えるべく、我々紋別医師会員も老体に鞭打って(若い会員もおります)まだまだ頑張らなければならないと思っております。

